令和７年度ひょうご事業改善レビュー　外部委員会意見

【第２回外部委員会（８月21日）】

事業名	主な意見
消防団の活性化（女性消防団員充実強化支援事業） 〈危機管理部〉	**・モニタリング、効果検証の課題** 女性消防団員の増加は確認されているのであれば、補助事業との因果関係の検証が不十分のため、モニタリングと効果検証すべき。 **・アウトカム指標①の見直し** 現行のアウトカム指標①「全消防団における女性団員の採用」では女性団員数の増加が正確に反映されにくく、成果を十分に捉えられないため、「女性消防団員数」というダイレクトな指標を設定すべき。 **・補助金の使途と効果** レビューシートの自己評価欄「目標に対する達成状況（総合的評価）」について、「市町による県補助金の活用は進んでいるが、それが消防団への入団を促進するという目的に結びついていない。」というわけではないと考えられるため、再検討していただきたい。 ハード面（トイレ・更衣室整備）だけでなくソフト面（研修・広報）への補助も非常に重要であるため、取組にも広げられているか。 **・女性ならではの役割の訴求** 女性をターゲットにしているため、女性にしかできない仕事や女性の方が得意な仕事等をPRしていくことも増員につながるのではないか。 **・団員確保に向けたPR方法** 全体として団員の数を確保したいということであれば必ずしも女性に限定する必要はないのではないか。学生や若者層についてはボランティアにもなり社会的意義があるというアプローチも広報として有効である。 **・アウトカム指標の追加** ソフト事業の研修やイベントにおける、一般参加も含めた研修参加者数などをアウトカム指標として追加すべき。団員以外の一般の関心層を巻き込む広報・研修の工夫が重要である。
バーチャル企業訪問など県内大学生の地元就職促進（大学連携組織を活用した県内大学生の地元就職促進プロジェクト）〈総務部〉	**・事業名・目的の整理** 「バーチャル企業訪問」など手段が事業名に含まれており、目的が分かりづらいため、事業名は「県内大学生の地元就職促進」など目的にすべき。 **・事業成果の把握** 事業の直接的な成果を把握することができていないため、この事業に関わった学生が県内企業の内定を取ったかどうかダイレクトに把握できるよう検討していただきたい。 **・他施策との連携** 他の部局とも連携し施策を展開することで、より効果的に地元定着の流れを強化でき、地元就職促進が進むのではないか。 **・低学年の学生に向けた事業展開** 低学年に対しては、経営者による説明会や模擬面接等よりもハードルの低い地元企業との接点づくりが必要である。 **・アウトカム指標①の課題** 現在のアウトカム指標（県内大学卒業生の県内企業への就職率）は最終的な目標であるため設定すべきではあるが、遠すぎて事業の効果が見えにくい。より近いアウトカムとして、アウトプット指標に設定している「参加学生数」を最初のアウトカム指標に設定すべき。また、「企業へのエントリー数」「内定取得数」なども把握できる場合はアウトカム指標になるのではないか。 **・同大学の先輩との交流** 同じ大学・学部の先輩との交流が学生の参加意欲を高めるため、積極的に活用するべき。

県立大学授業料等無償化事業 〈総務部〉	・**事業名の整理** 「授業料等無償化」という手段が事業名になっており、目的が見えづらい。本来の目的は「兵庫の若者が、学費負担への不安なく安心して希望する教育を受けることができる仕組みづくり」であり、事業名は目的を反映すべき。 ・**事業目的の追加** キャリア教育や地域貢献などの指標が追加されているが、事業目的とアウトカムとの整合性が不十分のため、事業目的も追加で書き換えるべき。 ・**成果指標（アウトカム）の課題** 現在のアウトカム指標が無償化対象学生に限定されていないため、無償化対象学生に限定したアウトカム指標の設定が望ましい。 新入生アンケートなどを活用し、進学動機や地域定着の傾向を把握することが重要であるため、実施を検討していただきたい。 ・**大学の魅力づくりと連携** 地域貢献やキャリア形成を通じて、大学の個性や魅力を高めるべき。「無償化」だけでなく、「ここでしかできない学び」や「地域との連携」を前面に出すことで若者の地元定着を促進し、施策の統合的展開を図ってはどうか。 ・**データ取得の課題** 無償化対象学生の行動（履修・就職・地域活動）を追跡し、アウトカムを取らなければ、この事業の正しい成果を把握することはできないのではないか。目標に合った成果のデータを取る仕組みを組み込んでいかなければならない。
生活交通ネットワーク再編等実証実験 〈土木部〉	・**実証実験の状況とニーズ** 県内でのニーズも高く、実証実験を行った 11 件中 10 件が本格運行に移行しており、成果は非常に高いと言える。 ・**成果指標（アウトカム）の追加** 現行のアウトカム指標（輸送人員数、県民の利便性評価）はマクロ的視点で、事業の直接的成果からは遠い。実証実験の成果として「本格運行への移行数」など、より近い指標を設定すべき。この事業によって交通空白地がどう解消されたか等のダイレクトな数値も指標設定として検討していただきたい。 ・**地域ニーズへの対応** 病院に行きやすくなった、買い物が便利になったなど生活のシーン別に満足度が比較できるようになると良いのではないか。 ・**成果の横展開** 成功事例を県内他市町に共有する取り組みを行っているのなら、横展開できた数をアウトカム指標として設定することも考えられる。 ・**担当職員のやりがい** 成果指標の見える化は、担当者のやりがい向上にもつながる。指標の工夫が行政職員のモチベーションにも影響するため、指標を利用していただきたい。